

自己点検・評価報告書

NSA 日本語学校

実施日：令和2年(2020年)8月28日

実施責任者：校長 新美薫

実施担当者：松本知恵、古田美幸、伊藤美穂

各点検・評価項目は以下の5段階で評価を行い、十分達成されていないものは今後の課題を挙げた。

- A 達成されている
- B 概ね達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる
- C 達成に向けて努力している
- D 達成されていないこれから取り組む
- X 該当しない

1. 教育の理念・目標

評価：B

当校の理念である「多文化共生社会の実現に貢献できる人材の育成」を実現するため以下の3点を教育目標に掲げている。

- (1) 日本の文化やルールを理解し、自文化を日本語で伝えられるようになること
- (2) 日本語を生かして地域の人と協働できるようになること
- (3) 日本で進学・就職できる日本語能力を身に着けること

目標達成のため、学期ごとに教員ミーティングを実施し、理念や教育目標の周知を行っている。目標に合致したコースの設定および運営、募集活動、学生指導を行い、反省・改善を行っている。

今まで教育理念や目標は口頭で語られることが多く、明文化されてこなかったため、今年度学校ホームページを刷新し、内外に周知できるようにした。ただし、(2)については、目標に達することはできず、今後の課題である。

2. 学校運営

評価：C

日本語教育機関の告示基準を満たす教職員・設備が整っている。

2018年10月期より、定員数80名から120名に増員した。さらに2020年4月期より、定員数120名から160名に再度増員の許可を受けている。それに伴い、クラス編成、予算

編成、各職員の担当業務などの見直しを行った。

当校は(株)ニューサイエンスアカデミーが設置者であるが、組織運営および人事、財務管理については当校校長より設置代表者に申請・報告を行い、設置代表者が承認・決定をすることで運営されている。四半期ごとに設置者代表者および当校幹部の運営会議を行い、経営目標・戦略の確認を行っている。

しかしながら、設置代表者と当校幹部が話し合う時間が限られており、運営会議での議論・決定に時間がかかっている。コミュニケーションの取り方を工夫する必要がある。

3. 教育活動

評価：B

当校は初級、初中級、中級、上級の4課程がある。学内の定期試験および出席、課題の提出状況により成績評価をおこなっている。成績評価や進級、修了の判定基準は入学時のオリエンテーション時に、学生が理解できる言語で周知している。

教員の指導力向上のため、新任の教員については学内で研修を行っている。教育課程改善のため、学期ごとに教員ミーティングを行っている。

今年度はさらに教員の知見を広め、指導力を向上させるため、勉強会を実施した。

4. 学修成果

評価：C

学生の日本語能力については、定期試験後に個人面談を実施し、勉強方法などの改善や進路指導を行っている。また、日本語能力試験、日本留学試験、J.TEST 等外部の試験にも積極的に挑戦するよう推奨している。学生の受験状況及び出席・成績は事務局で管理し、進路指導に活用している。

自宅学習方法など授業以外での勉強について具体的なアドバイスが今までできていなかったため、今秋から学生の学習目標シートを導入し、学生が意欲的に予習・復習に取り組めるように試みたが、より効果的な方法を引き続き検討する。

5. 学生支援

評価：B

定期試験後に個人面談を実施し、進路相談は随時受け付けている。担任教員および教務主任が進路指導に当たっている。また、授業後に宿題の解説を行い、学生からの質問等に対応し学習をフォローしている。

健康管理や生活指導については、毎日学生を事務所に行かせ、健康状態や生活状況を確認している。また、年に1度家庭訪問を行っており、学生の生活環境にも目を配るようにしている。防災センターなどで災害時にどうすべきかも伝えている。

災害時は学校および学生寮近くの避難場所に集合するように指導しているが、学生寮に

住まない学生が増えてきており、防災時や緊急時における体制を見直す必要がある。

6. 教育環境

評価：A

学校の施設・設備は十分整っている。学生の自習スペースを設けたため、授業後も学生が学校で勉強する環境を広げることができた。休憩中にトイレが混雑することがあるが、担任教師が休憩時間を少しずらして他のクラスと重ならないようにするなど配慮をしている。

教材も教科書の他、学内で作成したオリジナル漢字 PPT などを活用し、より学習しやすい教材を提供している。

今年度より多読コーナーを設置し、学生に日本語を楽しんでもらうとともに読解力を向上させる取り組みを始めた。

7. 入学者の募集

評価：B

入学希望者は現地において面接と日本語のレベルチェックを行い、学習意欲や目標、経費支弁状況などを確認したうえで受け入れを決定している。また、送り出し機関についても半年ごとに社内で評価を行い、適切でないと判断した機関との取引はしないこととしている。

教室環境を考え、学生の国籍が特定の国に偏らないように募集を行っている。

8. 財務

評価：C

みずほ銀行をメインバンクとしているほか、グループ企業と財務的な連携をとることで財務基盤の安定化を図っている。予算、収支計画ともに短中期的な計画を作成しており、月次の点検を行うことで有効性を担保している。また、公認会計士事務所による月次監査を実施している。

なお、財務状況の公開を求められた場合、公開する体制が整っている。

9. 法令順守

評価：A

出入国管理及び難民認定法および各種関係法令を遵守し、適切な運営ができています。学生にも入学時に通訳を介して学生が理解できる言語で留学生活にかかわる法律・規則を説明している。また、警察や市役所職員を招いて、日常生活のルールなどの周知を行っている。

学生の個人情報も部外者がむやみに触れることのないように管理をしている。

自己点検については、昨年まで問い合わせがあった際に開示することとしていたが、今後はホームページで適宜閲覧できるように変更した。

10. 地域貢献・社会貢献

評価：B

昨年 12 月に当校で日本語教師向けの公開講座を開催した。今年度は県内の大学の日本語教師養成課程に在籍する学生の授業見学を受け入れ、学生との交流会を実施した。今後は地域の公立小学校との交流も予定している。